

《鬼火で久玉地区の平穏無事を祈願》

1月7日、久玉地区振興会年初め行事である「鬼火」を開催した。

ふれあい広場に椎・檜等の雑木を高く積み上げ、正面には門松を飾り、米、塩、鯛、お神酒を御供えした。

例年だと家族の健康と地区の安全を祈願するが、元日に能登半島を中心に震度7の地震と津波が発生し多くの尊い命が失われ、家屋を失った人も数知れず避難所では多くの方が辛い生活を強いられている。そんな状況を踏まえ今年は全員で、亡くなられた人のご冥福と一日も早い復興も併せて祈願した。

午後1時、積み上げられた雑木に火をつけると炎が勢いよく燃え上がり、そこから吹き出す大きな黒煙は大きな塊となって流れていく、強風にあおられ左右へ揺れ動く様は何者も寄せ付けぬ強さが感じられた。

炎が落ち着くと残り火を囲んで竹竿に挟んだ餅をあぶる光景が見られた。この餅を食べると1年間病気をしないとの言い伝えがある。

昔からの風習が受け継がれているのが微笑ましい。

昔(60年程前)の鬼火は、上揚区は門前・眼鏡橋・友田橋下の3か所で、村田・鍛冶屋・明石・大脇・吉田区はそれぞれの区ごとに埋め立て前の久玉湾砂浜でやっていた。

その頃、作業の中心は子供達で、小学校上級生が松の枝を切り、下級生が縄で括り現地まで運んでいたのを覚えている。

石で囲んだ竈(かまど)を作り、残った炭火で餅を焼いて食べた楽しい思い出がある。

久振だより

人口2424人
1327世帯
-第189号-
発行
久玉地区振興会
発行日
令和6年2月1日



振興会(ふれあい広場)



各地区の「鬼火焼き」
「どんぞろ」の様子



内の原区



上揚区



吉田一区



かじや区

心を込めた手づくり弁当で「友愛訪問」

1月21日、久玉地区振興会女性部は恒例となった「友愛訪問活動」を実施しました。

社会福祉協議会の委託を受けて、75歳以上の一人世帯の高齢者へ見守り活動を兼ね女性部の手作り弁当をお届けするのですが、お元気でいらっしゃるのか日々の生活の状況を確認するのも主な目的です。

前日に野菜の切込み等を済ませ、当日、朝8時から23名の女性たちが調理にかかりました。てんぷらを揚げる人、煮しめを作る人、ちらし寿しを作る人等、その手際が良いこと、役割分担がきちんとできていて、対象者86名へ昼食前にお届けすることができました。

弁当を受け取った皆さんから「美味しい弁当を毎年楽しみにしています。ありがとうございます」と笑顔いっぱい感謝の言葉が聞かれ。女性部会長、小牧みえさんは「皆さんから喜んでもらえ良かったです。私たちも年々高齢化していますが後継者に引き継ぎながら今後も続けたいと思います」と話していました。

ちなみに弁当の献立は煮しめ(切干大根、人参、昆布、ちくわ、厚あげ、こんにゃく、ごぼう)赤くて甘い寒天、いも・人参葉の天ぷら、ちらし寿し、デザートにみかんがありました。



☆次回:しろやま文庫のお知らせ☆

2月3日(土) 10:00~

「大人のためのお話を楽しむ会」

